

はばたけ!

帯広市立大空中学校だより

# 星と森の大空へ

No.1 9

令和元年12月12日発行

～ 学校教育目標 ～

北の文化を拓く

「明るく健康な心身と個性

豊かな英知を育む」

## 日本の美しい食文化を大切にしたい

校長 黒島 俊一

「おふくろの味」とは、幼少期に経験した家庭料理、もしくはそれによって形成された味覚、またそれらを想起させる料理を指す言葉と言われています。日本では古くから家庭における料理、炊事は母親の仕事であったことから、このような表現になっているという説もありますが、世界各国にはこうしたおふくろの味「的」なものがあるようです。日本では味噌汁や煮物など、お袋の味は、その家庭の味として受け継がれていますが、みなさんにとってのお袋の味と言えれば何を思い浮かべるでしょう。

さて、食の重要性や安全性などが指摘される昨今、私たちの食生活もずいぶんと変化してきました。食の欧米化、飽食の時代、ファストフード化、冷凍食品なども豊富に見られ、中食などの利用も多く、スーパーなどでは、家庭ではなかなか作れない惣菜コーナーが大変バラエティに富み、私たちの食生活を変えつつ、支えてきているとも感じています。

昔は食べ物に対する感謝の気持ちが、どこの家庭の食卓にもありました。私の小さい頃は、「ご飯粒一つも残すな」とか「ご飯粒を残すと目が見えなくなる」「罰当たり」という言葉を言われて、「目が見えなくなったら大変だ!」と思って、怖くて必死にご飯粒を箸でかき集めて食べていた記憶があります。

きっと昔の方は、それだけ食料が食卓にのることに対して、様々な人のおかげであるという感謝の気持ちを忘れなかったということなのでしょう。また、生きとし生けるものの命を頂戴して、おかげさまで食べることができるという感謝の気持ちを「戴きます」という言葉に表しているという説もあり、諸外国ではこうした意味の挨拶の慣習はなく、いずれにしても美しい日本の文化といえそうです。



食育の研究授業から。  
管内の栄養教諭のみなさんもたくさん来校されました。



生産者の方と直に話す様子から。

こうした中、11月29日(金)、文部科学省の指定事業

「つながる食育推進事業」の公開研究会が本校で行われました。

(NHK帯広ローカルニュースでも放映されました)

2年1組で大草栄養教諭と嘉藤教諭が、給食を題材にゲストティーチャー(生産者、加工業者、給食調理員)のみなさんにインタビューしながら学習を進め、おいしい給食をつくるために、それぞれの役割で、熱い思いを持ちながら、一生懸命作っているという話に、多くの子どもたちが感銘を受けていました。

この事業は今後、保護者の方も含めたアンケートの協力をお願いすることになりますが、こうした学びなども契機に、家庭の味の大切さや食に対する確かな考え方、生産者への感謝の気持ちなどを大切にしたいところです。各家庭での味を大切に、日本人の心、日本の美しい食文化を後世まで残していくことにつながれば。

自身も含めて、その基本は日常の食生活を見つめることから始まるのでしょうか。

<参考: 思いに届く校長の言葉 昌三出版>

# 財政教室 & 獣医師会出前授業から 「おびひろ市民学」の学びへ

2年生獣医師会の出前授業と3年生では財政教室が開催されました。

獣医師会からは、帯広市食肉衛生検査所の鈴木 綾氏と、帯広市財政課からは山川 元希氏がお越しになり、子ども達に指導いただきました。

鈴木氏からは、家畜の生産から、食肉に加工されて流通するまで、また検査の過程など丁寧な説明を受け、また山川氏からは、帯広市の財政事情やお金の流れ、使われ方など、講義いただき、いずれもよい学びとなりました。



本校の総合的な学習の時間では、こうした学習も含め「おおぞら学」と称し、特色ある地域から学ぶ学習も盛り込みながら進めてきていますが、次年度からはその枠組みが、全市一斉に「おびひろ市民学」というくくりの中で進められることとなります。これは、「ふるさと教育」の推進として「自然と歴史、人々が創り出す帯広の特色を活かした、帯広でしか出来ない学びを通して、帯広の未来を拓く子どもを学校・家庭・地域総ぐるみで育てる」という考えのもと、小中学校9年間を通した学習を整理して取り組みふるさとへの誇りと愛着をもち、よりよい地域づくりにかかわる子どもを育てることがねらいです。

中学校では、手話講座、自然体験講座、認知症サポーター養成講座、防災、職場体験、キャリア教育、消費生活、財政講座など、これまで本校でも進めてきた内容なども盛り込まれて、体系的な学習計画により、地域とのかかわりで、地域や自分の未来を、自ら創り上げていく視点をもたせていくような学びを深めていくこととなります。



大空小中学校区に住む子ども達の健全育成を図る「青少年健全育成連絡協議会」（会長 西島 寛 氏）が開催されました。校下の町内会長さんをはじめ関係各氏が集まり、冬期間に向けた子どもの安心安全にかかわることなど、「大空地区安全マップ」をもとに情報交換しました。

公園のたまり場的な出入りの実態、コミセンそばの冬期間通学路（雪の吹き溜まり）や帯広の森パークゴルフ場わきの歩道のない通学路の危険性、不審者出没情報箇所、人通りが少ない場所、冬期間の歩行が難しい場所等、危険箇所についても多くの指摘がありました。

加えて、今後の道路拡張計画の予定や、住宅建設・取り壊し等、環境整備にかかわる動きなど、様々な情報交換がなされました。

今後も子ども達の安心安全を守るための情報提供をお願いします。

大空小中学校区  
青少年健全育成  
連絡協議会総会

コミュニティスクール

コミュニティ・スクールが10月より市内8つの小中学校でモデル校・モデル地域として導入され、本校と大空小も合同でその指定を受けています。コミュニティ・スクールは、「どのような子どもを育てるのか」という目指す子ども像を学校・家庭・地域が共有し、その実現に向けて連携・協働していく取組です。

具体的には、本校ではこれまでも、学習支援や登下校の見守り、図書ボランティア、また小学校でも放課後の居場所づくり等、多くの方々に学校運営や子どもたちの育ちを支援いただいています。PTA活動も含めて、これらの取組は引き続きお願いしつつ、学校からの協力依頼に加えて、当事者意識をもって学校運営について意見をいただいたり、よりよい推進連携に向けた具体的な「ひと、もの、こと」など、有形無形の後押しの情報提供をいただいたりしながら、大空小・中学校の子ども達の豊かな学びと育ちをともにつくっていくこととなります。第1回目の「協議会」の席では、早速「日常的な学習サポート」や「ミシンや木工などの指導協力」など、豊かな学びに向けて、地域住民としてできる、積極的で前向きな、様々な情報が寄せられました。心強いことです。

